

第25回全国青年保育者会議栃木大会に参加して

日の出保育園副園長 塙 信晋
御前山保育園主任保育士 川又 朋子

餃子の街・ジャズの街栃木県宇都宮市のホテル東日本宇都宮において7月8日から10日までの3日間、第25回全国青年保育者会議栃木大会が「子育ての未来像へS・T・A・R・T=変化の兆しを好機にできるか」をテーマに開催された。

第1日目は開会宣言に続いて主管者の実行委員会委員長である栃木県日本保育協会青年部長 阿久津均氏が「我々保育者は、『子どもたちの夢と希望を未来に掲げる』ために保育をどのように考え行動していったらよいか、この大会において大いに議論していきたい。」と挨拶された。つづいて主催者の日本保育協会青年部長 東口房正氏が「我々若い年代の保育者が子どもたちにとって理想の保育園とはどういうものか、また今後の激変の時代に保育園を安定的に運営してゆくにはどうしたらよいか、日頃から考えていることをこの大会において熱く議論し欲しい。」との挨拶があった。

次に栃木県日本保育協会支部長の挨拶があり、福田栃木県知事、梶栃木県議会議長、福田宇都宮市長他多数の来賓の方々からお祝いと激励の言葉が寄せられた。

その後、厚生労働省児童家庭局保育課長 高井康行氏が「保育の動向と課題について」というテーマで講演されたあと、今大会でもっとも印象に残った「鼎談^{ていだん}」が高橋英治氏（広島県富士保育園長）のコーディネートのもとに、古都賢一^{ふるいち}氏（厚生労働省健康局国立病院部企画課国立病院・療養所組織再編推進室長）、中辻直行氏（社会福祉法人神戸福生会理事長）、津川康二氏（社会福祉法人翠権会グリーンヒル施設長）によって行われた。



- ・ 老人介護の分野にはデイサービス(通所)、ホームヘルパー(訪問)、ショートステイ(入所)などさまざまな種類のサービスがある。しかし、これまで保育の分野では保育に対する多様なサービスを希望する声があったにも関わらず、五十年来一向に変わっていない。
- ・ このことが女性が子どもを産みづらく育てづらい社会を作る背景になり、少子化を進行させた要因と言える。
- ・ 他の社会(医療法人、株式会社)から見ると社会福祉法人は独占の上にあぐらをかいて社会の要求に答えてこなかった存在に映る。

1 三人が向かい合って話をする。またその話。

というような手厳しい意見が相次いだ。そしてこれからの保育、保育園は

- ・ この大会に参加しているあなた方が、自分の所属している地域社会を自らの足で歩いて、新しいニーズを見つけ、アイデアを持ってさまざまな保育を展開して行かなければならない。
- ・ つまりこれからの保育園は、利用者の声を聞き自主努力をし、競争を通じて結果的に社会福祉としての保育全体の水準を上げられるよう期待している。

とまとめられた。

二日目は「新世代保育園論～これからの保育園を考える～」というテーマの第3分科会（情報研究委員会担当）に加わった。

「これまでの保育園の存在意義を見つめ直し、その上で現在の保育園において何が必要とされているのか。保育園がより求められる存在になるためにはどうすればよいか。また社会福祉法人経営による保育園の存在意義についても改めて考えていきたい。」という趣旨説明のあと討議に移った。一般社会から見た保育園に対する現状認識、そして民間参入の実例としての東京都認証保育所の事例報告、評価システムとしてのHYK福祉サービス評価機関、東京都第三者評価機関の事例報告がなされ、それをふまえて小グループに分かれ活発な議論がなされた。

この第3分科会に参加し、様々な議論を通して本当に利用者が求めている保育、保育園とはどういうものなのかというヒントが見つかった気がした。現在の保育園は幼保一元化、一般財源化、契約入所システム、民間参入、評価システムなどさまざまな変革の中に置かれている。我々はこの難しい現状から目をそらすことなく、自分達の行っている保育を見つめ直し、それぞれの地域に合った改革をしていかなければならないと感じた。

最後に、我々二人とも保育の仕事に携わるようになってまだ日が浅く、このような大きな大会に参加するのは初めてだったが、全国には情熱をもってがんばっている若い多くの保育者がいることを知った。今後もこのような大会に進んで参加し、保育者として良い経験を積んでいきたいと思う。

関東ブロック保育研究大会に参加して

ひまわり保育園園長 小橋 達也

第44回関東ブロック保育研究大会がさる6月26日（木）、27日（金）の2日間に亘って茨城県民文化センターを主会場に開催された。今年度は水戸で開催されるということで民間保育協議会青年部にも順備、運営への協力要請があり、私も1日目「舞台設営係」、2日目「分科会会場係」という裏方として協力させていただいた。

事前打合せが6月11日（水）に行われ、その時初めて係員資料として「大会係員必携」が配られた。この資料には時間を追っての進行の流れ、業務別担当者一覧が分かり易く載せられており、事務局の努力が忍ばれた。



1日目の全体会は午前11時からの受付開始、午後12時30分からの「荒磯太鼓」によるオープニング、午後1時の開会という日程にあわせて、「舞台設営係」は午前9時に現地集合した。まず①開会式のイスや演台をセットし位置決めしてテープマークする。②研究発表用スクリーン、プロジェクタ置き台、電源コード、パソコンの接続試験、プロジェクタ置き台をテープマークする。③位置決めが終了してから太鼓セッティングする、という流れでオープニングに備えた。

開会のことばの後、花のおさなご斉唱、主催者・来賓挨拶、講演、研究発表などの進行に従ってピアノ、イス、演台、マイクなどの移動設

置を行った。設営の合間に講演や研究発表を聞こうと思っていたが、次の設営準備のことが気になり集中して聞くことができず、舞台裏で手持ちぶさたで待機するという格好だった。

全体会には1,185名の参加者が集ったといふことだが、会場から舞台を見るのと違い、舞台側からはそんなに

大勢の方々が参加していたようには見えなかった。

2日目は午前8時に会場（サンシャイン常陽孔雀の間）に集合し第4分科会会場の準備を開始した。午前8時30分から受付開始し、午後12時からは参加者への弁当配布と空箱回収、午後3時30分の分科会終了後に参加者をお見送りし、助言者・発表者接待、後片づけという内容の職務を行った。会場の設営（いす、テーブルをグループ別に並べ替え）に手間取り受付開始が遅れそうになったり、また参加者（140名）分の資料が用意されておらずホテルのコピー機を借りて急場をしのいだりという問題もあったが、大きな混乱もなく対処できて幸이었다。第4分科会会場係には公立保育所の先生方もお



り、同じ保育関係者としての連帯感を持つことが出来たことは良かったと思う。今回裏方として2日間の大会を終えて感じたことは、与えられた役割を何とか果たすことができたという安堵の気持ちだった。分科会終了後に係員反省会が持たれたが、細田運営委員長以下役員の方々も「ホッ」とした表情をしており、私など比較にならないほどのプレッシャーを感じながら職務を行っていたことが感じられた。最後に、実行委員会の役員・県社協職員の方々には、大会の細部まで詰めた計画を立てるために何度も会議を持ち、各部門からのさまざまな要望の調整に頭を痛めたことと思います。この大会を成功させるために注いだ努力に敬意を表したいと思います。

青年部全体会に参加して

平成15年7月30日

はすみ保育園園長 増子 春江

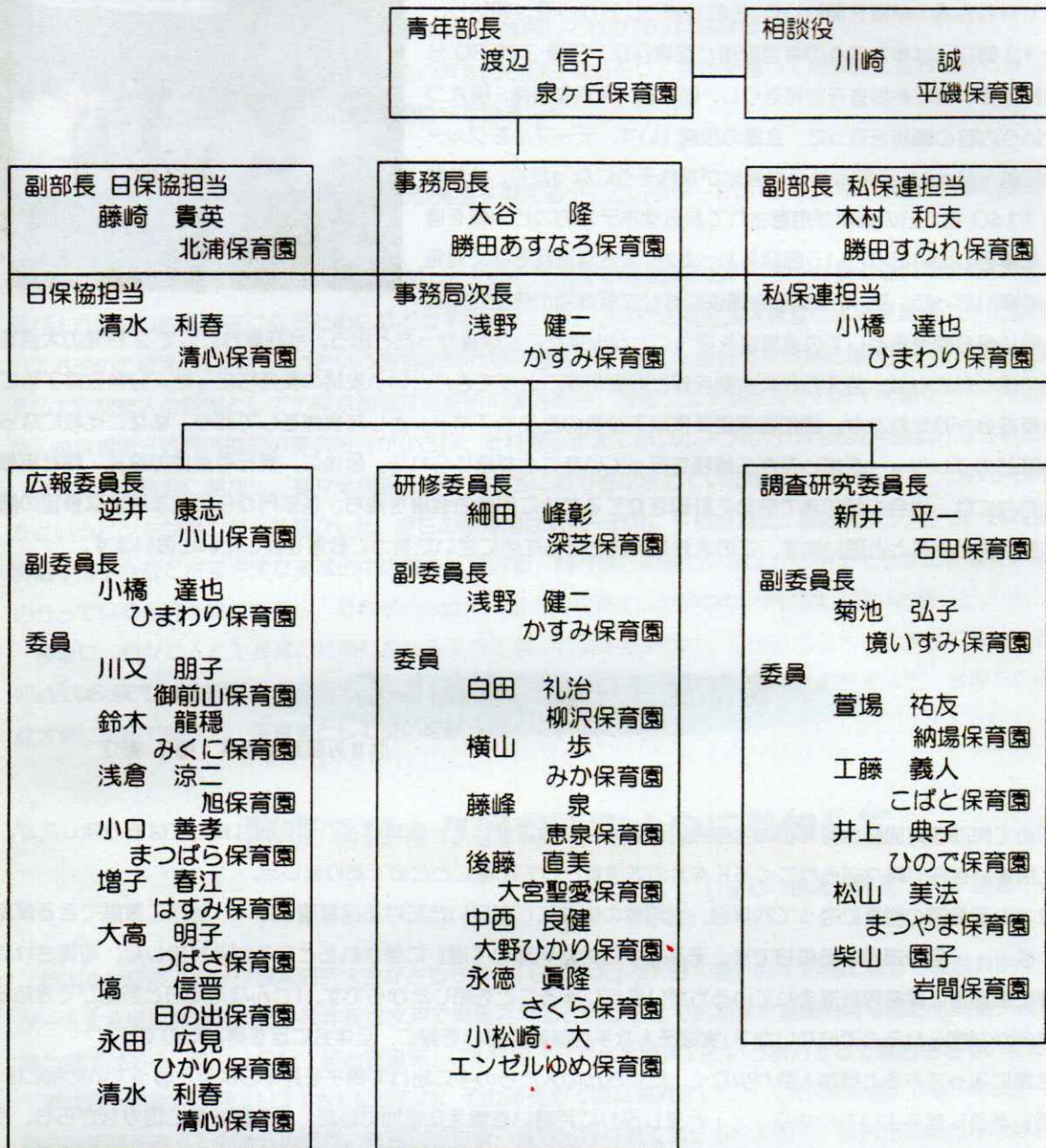
初めて民間保育協議会青年部の全体会に参加させて頂きました。青年部という名前は知ってはおりましたが、私には遠い存在で時々送られてくるFAXの送信者として記憶にとどめておりました。

はすみ保育園の園長になって四年目。利用者の皆様にご満足いただける保育園とは・・・地域に貢献できる保育園とは・・・暗中模索する毎日です。そんな中この青年部の『礎』に惹かれるところがありました。寄稿された文章に前向きに保育界を進まれている方がいらっしゃることを感じたからです。「こんな方たちとお話ができたら、私は何かが得られるのではないか？」実はそんな手前味噌な思いを胸に、全体会に足を運んだのです。

会場に入ってみると参加人数が少なく、たくさんの人たちの中に紛れて様子を見てみようと思っていた私には、さて、どうしたらよいものやら・・・と久しぶりに戸惑いを覚えた空間でした。身の置き場に困りながらも、今回の会議にお誘いくださったH保育園のK先生の後を付きまとうように「広報委員会」の片隅に。広報委員会の活動とは・・・と耳をそばだてるだけのつもりが、青年部への入会手続きもないまま私は広報委員会のメンバーの一員になっていました。

というわけで、私は青年部も広報委員会もどういうものなのか理解しないままに、この原稿を書いているわけです。もしかしたら、そのくらい自由でおらかな会なのかもしれないと、今後の活動に大きな期待を持っています。そして、駆け込みセーフの年齢ですが、私もこの会に少しでも貢献できると、か細い腕の袖を少しだけまくりあげています。

青年部組織図及び部員名簿



礎編集後記

今年度は渡辺新部長のもと広報委員会のメンバーもだいぶ若返りやる気満々です。これまで年2回の『礎』の発行が主な活動でしたが、秋口に臨時号を発行することになりました。しかしこの時期メンバーもいろいろな行事が重なりなかなか集まらない状況でしたが、このたびようやく発行にこぎ着けました。

T、O

